

テーマ：ロイター短観（2013年5月）
発表日：2013年5月20日（月）

～回復が鈍かった素材型の景況感にも明るい兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL：03-5221-4525

	製造業DI											非製造業DI								
	素材型					加工型						不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス			
		繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄		食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他									
2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	8	0	22
	2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18
	3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24
	4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42
	5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38
	6月	▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13
	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17
	9月	▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26
	10月	▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25
	11月	▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14
	12月	▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	29
	3月	▲11	▲14	▲30	▲10	▲16	0	▲10	20	0	▲28	▲6	0	12	0	20	14	33	▲21	30
	4月	▲4	▲12	▲18	▲9	▲15	▲11	3	▲20	21	▲14	14	0	12	17	20	19	19	▲15	23
	5月	7	0	▲30	9	25	▲10	13	0	22	10	7	9	19	18	32	8	40	▲4	33
3ヵ月後見通し		22	18	▲10	33	25	10	24	0	27	28	14	25	28	27	38	26	33	7	41

(出所) ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：1年ぶりにプラス圏

5月ロイター短観（調査期間4月26日～5月15日）の製造業DIは+7（4月：▲4）と前月から大幅に改善し、1年ぶりにプラス圏に復帰した。これで6ヶ月連続の改善であり、改善ペースも加速している。円安の進展による輸出採算の改善に加え、「受注は4月から回復してきた」（電機）とのコメントのように、販売量自体も上向いてきたことが景況感の押し上げに繋がっているようだ。

今回の調査で注目されるのは、素材型の景況感の改善である。素材型はこれまで円安による原材料価格の押し上げを背景に景況感の鈍さが目立っていたが、5月は前月差+12と大幅に改善した。内訳をみると、繊維・紙パルプが悪化した一方、石油・窯業、化学が大きく改善し、鉄鋼・非鉄も小幅ながら改善した。「原材料高に対する製品価格の是正が進まない」（化学）など、円安による原材料高が収益を圧迫していることには変わりはないが、販売量の増加（期待）などが円安による採算の悪化をカバーしているものとみられる。円安による悪影響の緩和が示唆されたことは明るい材料である。

○非製造業DI：堅調な推移が続く

非製造業DIは+19（4月：+12）と改善し、リーマンショック前の2007年10月の水準にまで回復した。内訳をみると、小売を除くすべての業種で改善している。小売も今月こそ悪化したものの、均してみれば年明け以降改善傾向を保っている。低位にある住宅ローン金利や公共投資の増加期待、株高などによる消費者マインドの好転等を背景に、非製造業の景況感には堅調な推移が続いている。

○マインドの改善が設備投資に点火することが期待される

3ヶ月後の見通しは製造業は+22（5月実績：+7）、非製造業は+28（5月実績：+19）と、ともに大

幅な改善が見込まれている。内訳をみても、ほぼすべての業種で改善が見込まれている。製造業は円安や輸出の増加などを背景に、非製造業も公共投資の増加や好調な住宅販売、個人消費の底堅さなどを背景に、景況感の改善傾向が続くであろう。ロイター短観を含め月次企業マインド統計では、企業景況感の回復が鮮明となっている。先日公表された13年1-3月期のGDPでは、その他の民需項目が好調な中、設備投資の弱さが目立ったが、今後は企業マインドの改善が設備投資に点火することが期待される。



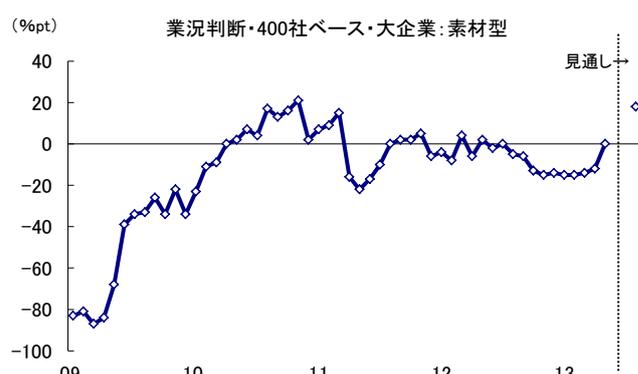
(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」